

戰時特ニ長期戰ニ於テハ生産諸力ハ極度ニ緊張セシメラル、ニ  
 拘ラス一般的ニ生産ノ低減ヲ生来ス、此ノ原因トシテハ國民中最モ  
 強力健康ナル部分カ軍隊ニ召集サレ生産的勞働ヨリ除外  
 セラル、コト及生産施設機械ノ摩耗損傷度ノ増加ニ伴フ  
 修理ノ不充分ニ歸因スル能率低下ニ不熟練者及老幼  
 者婦女子勞務者ノ代位ニ依ル能率低下、空襲其他ニ依ル障  
 碍等ニ因ルモノト認メラル。

佛國 ニ於テハ一九一三年ヨリ一九一八年ニ到ル間ニ於テ石炭  
 採掘高ハ三五・五%、鐵鑛石ハ九三%、銑鐵ハ七五・一%、鋼  
 鐵ハ六三%ノ低下ヲ見、工業生産指數ニ於テハ五〇%ノ低下  
 シ示シアリ

獨逸 ニ於テハ同期間中ニ工業生産指數ハ四二・九%低下シ、  
 石炭ハ一六・七%、銑鐵ハ五三%、鋼鐵ハ三五・五%、砂糖  
 四八・六%、麥酒ハ六四%ノ低下ヲ示セリ

内閣

英國ニ在リテハ生産低下ハ左程顯著ナラズ寧ロ鐵鋼ノ如キハ  
 擴大セラレタルモ、石炭採掘高ハ二〇・八%、鉄鐵ハ二一・四%、造船  
 ハ三一・二%、低下ヲ示セリ (以上「世界經濟恐慌」第一卷)

(四) 軍需工業生産ノ擴大

軍需工業生産擴大ノ比率ハ其ノ國ノ技術、工業力及資料等  
 ニ依リ、全然異ナルヲ以テ之ヲ抽象スルテ不可能ナルモ茲ニ、所  
 與參考資料及左表ニ依リ概觀ヲ見ルニ、

英國火砲生産指數(一九一六年五月ヲノトス)

六吋以上大口徑砲	一九一六年七月	一九一七年四月
四吋半榴彈砲	一七・五	二八・〇
四吋半榴彈砲	二七・〇	五三・〇
中口径加農及榴彈砲	三四・五	七一・〇
六吋以上大口徑砲	九四・〇	四二三・〇

内閣

佛國ノ例

小銃及機關銃

一九一六年三月頃官立造兵廠ノ銃製造所二ヶ所ノミニテ日産三五。挺、  
十銃製造ナリシガ全佛國ニ於ケル開戦後一年半ノ製造力ハ開戦前  
初ニ比シ約一八倍ニ増加セリ。

機關銃一九一六年三月、ホツケキス工場ニテ日産約八〇。挺ヲ出シ、開  
戦後滿一ヶ年ニ於ケル全國ノ製造力ハ最初ニ比シ約一三六倍ト  
ナリ。

野砲

一九一六年八月、野砲製造力ハ開戦當初ニ比シ砲身ニ於テ三七倍、砲架ニ  
於テ九一倍ニナリ。

重砲

開戦當初佛軍重砲ノ數ハ二百數十門ニ達セリシガ獨軍重砲ノ優勢  
ニ利戟サレ、生産増加ニ努力シタル結果一九一五年四月迄ニ約二〇門ヲ

製造ニ而露軍ニ一部ヲ供給スルニ到レリ

### 火薬、爆薬

開戦當初、佛全体ノ製造力ヲトスレバ一九一五年五月十五日ニ於テ火薬ハ一、八倍、爆薬ハ七倍、一九一六年三月一日ニ於テハ前者六〇、後者二五、五倍トナレリ。

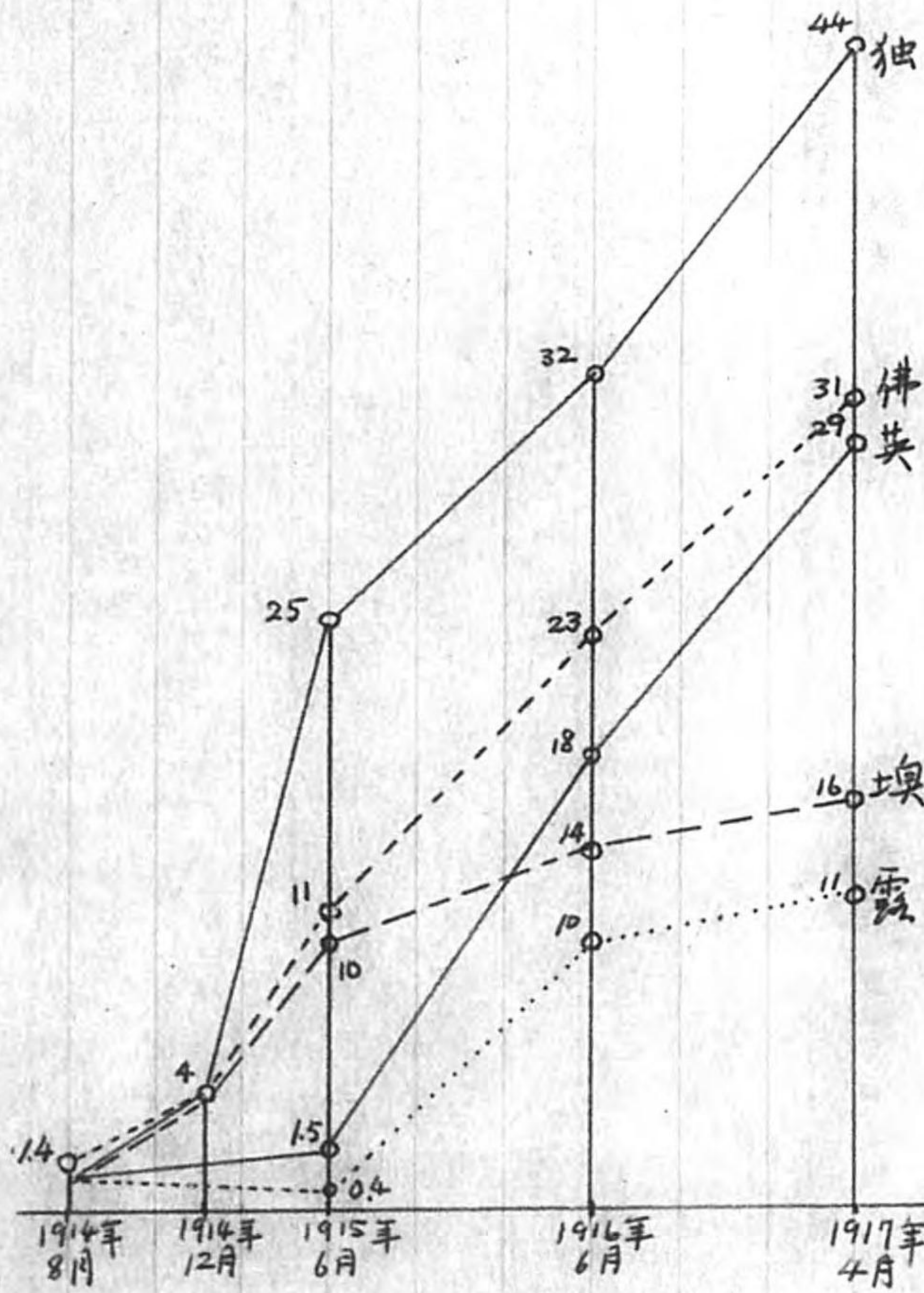
### 砲彈

開戦當初日産ニ万枚ヲ標準トシテ官民工場ニ於テ生産ニ従事シアリシガ一九一六年三月頃ニハ日産ニ三万枚ニ上リ、一九一六年七月ニ開戦當初ニ比シ野砲彈ニ於テ三十八倍半、中口径砲彈ニ於テ約八〇倍ニ増加セリ。

尚砲彈ノ生産ニ於テハ獨ハ一九一七年四月ニ開戦當初ニ比シ四倍ニ達シアリ。(次表参照)

7.

第一次世界戦争中各國砲彈一日平均生産數量(單位万發)



內  
圖

別表第四

銃砲1ヶ當年消費彈藥數標準

小銃彈	佛	獨	米
小銃一挺當	4500	7500	3600
輕機關銃當	—	210000	100000
重機關銃當	135000	280000	300000
砲 彈			
輕砲一門當	12000	17000	15000
輕榴彈砲當	6000	17000	—
重野砲當	6000	自6300 (至10500)	自5000 (至9000)
重榴彈當	4500	10000	7500

Darazyusky-Kriegsvorbeleitungen gegen die Sowjetunion

ニ據ル 各國陸軍彩用ノ數字ト稱セラル

い 戦争に伴う生産構成の变化

物的乃至、生産財ニ関スル生産構成ノ变化ヲ適確ニ論據スラシムル  
資料未ダ入手シ得サルヲ以テ茲ニ勞務構成ノ变化ヨリ推論セン

トス。

所與参考資料中第五三表及第五四表ヨリ工業労働者ノ軍  
需ニ業従事者、全工場労働者總數ニ對シ占ムル比率ハ

独逸 五八・三%

露 七六・〇%

(第五四表ニ依ルハ一九一六年ニ於テハ、<sup>73.3%</sup>トナル)

佛 五七・〇%

英 四六・〇%

伊 六四・二%

米 三一・六%

即チ各國共概テ六・〇%程度ヲ占ムルヲ見ル、戦前ニ於テハ各  
國兵卒和産業六・〇%程度ナルベキヲ以テ轉倒セルモノト見

内

閣

ルヲ得ズ。

尚婦人勞働使用状況ヲ見ルニ佛國ニ於テ大戦前ヲ一〇〇トシ  
一九一八年七月、指教ヲ採レバたノ如シ

鐵鋼業

六七七

食糧工業

六五

運輸及商業

四六一

書籍業

七三

建築業

三〇一

石工業

七九

羊毛工業

一五〇

精密金屬工業

八五

化學工業

一四一

被服工業

九一

皮革工業

一一一

紡績工業

九二

其他

一〇五

佛國勞働者、調査ニ依レバ調査工場五三七八工場ニ於テ大戦  
直前婦人使用數ハ四八七、四七四名ナリシ如シ

一四年八月

一九九、一〇七



一五年七月

四一八五七九

一七年七月

六二六八八一

ト増加ヲ示セリ。而シテ婦人勞働ノ増加ハ軍需工業ニ最モ多ク一九二八年九月ニハ四四五〇〇名ニ達シ、從業勞働者總數ノ二四五%ヲ占メ、此外軍部各所ニ於テ書記的業務ニ服シタル婦人數ハ一九二八年一月ニハ一三二、四六八名ニ達セリト。

英國ニ於テハ別表第三ニ示ス如ク

婦人勞働者ノ輕工業從事者ハ減少シ軍需工業若クハ軍需附帶產業部面ニ増加シ且直接男子ニ代位セル數カ如何ナル工業ニ倚倚セルヤリ見レバ判然タルモノアリ。

尙窪田研究室ノ附表中第一次歐州大戦中併國有業男子勤員調ニ依レバ此ノ勤員状況ヲ生産構成ノ変化ヲ遂ニ推察シ得ル。

別表第三

英國婦人勞働者工業別比較表(單位千人)

業 別	1914-7	1918-7	差	直接男子ニ代位セル 婦人勞働者數1918-1
金屬工業	170	594	(+)424	195
化學工業	40	104	(+)64	35
織經工業	863	827	(-)36	64
被服工業	612	568	(-)44	43
食糧工業	196	235	(+)39	60
製紙印刷	148	142	(-)6	21
木工業	44	79	(+)35	23
政府工業	2	225	(+)223	197
其他	104	197	(+)93	62
總計	2,179	2,971	(+)792	700

二 戦争規模及形態ト所要生産力

近代の機械化セラシタル大軍ノ軍用資材ノ需要ノ莫大ナルハ別論セル所ヲ推定サルベキモ茲ニアメリカノ一専門家クラーク<sup>Clark</sup>ガ戦争遂行ノ物資的基礎ノ最少要件トシテ

1. 鐵鋼業ノ確保
2. 機械工業ノ確保
3. 化學工業ノ確保
4. 鐵鑛石ノ供給確保
5. 石炭ノ
6. 石油ノ

ヲ擧ゲアルモ理由ナシトセサルベシ、

ホソニー<sup>Hosny</sup>今日ノ戦争<sup>ハ</sup>ニ於テ防禦戰ニ必要ナル鐵鋼<sup>ハ</sup>千五百萬噸、攻撃戰ニ必要ナル鐵鋼<sup>ハ</sup>四千萬噸ト稱ス、動員兵力ニ於テ前者ノ場合五五〇萬、後者ニ於テ六五〇萬ヲ擧ゲアル所ヨリ

之ヲ兵員一〇万名當リニ換算スレバニ七、三万噸乃至六三万噸トナル、伊太利、ソウゴ、ナニニハ、戦斗員一〇万人ノ一部隊毎ニ要スル需要額トシテ左ノ数字ヲ算シテ

武器、彈藥、鐵道修理等ノ所要鋼鐵 四〇万噸

石 炭 八〇万噸

鐵鑛石 一〇〇万噸

石油 二〇万噸

硝化塩、硫黄、黄鐵鑛、マンガン、銅、鉛 二〇〇〇

棉花、羊毛、絹、ゴム 三〇〇〇噸

錫、ニッケル、アンチモニー、アルミニウム、亞鉛水銀 二五〇〇噸

(世界ノ原料爭奪戰ニ據ル)

鐵ヲ所與資料等ニ表及第五七表ヨリ鋼鐵ニ就キ特逸ノ場合ヲ算定スレバ(其他ノ國ニ需要量ノ算定ツカズ、特ニ生産ハ概テ需要ト等シキモノト見做シ得ルヲ以テ之ヲ採ル) 三四、〇万噸ヲ

内 閣

保之等ヲ判ズレバ、戦員一〇万人ノ鐵鋼所要量ハ概ネ四〇〇  
五〇万噸ト見テ差支ナカラン。

此ノ數字ヲ基礎トスレバ他ノ主要物資ノ所要量ハ鋼鐵トノ定比  
ヲ乘ズルニ依リ概定シ得ベク、二三ノ例ヲ舉ケレバ「ブルツクス、ニ  
ー」ノ軍需資源論ヲ引用スレバ

「マンガン」ハ 鋼一噸者リ 一四、三 對度ヲ要ストノ由ナレバ、四〇万噸ノ鋼  
鐵ニハ 二五六。噸、

「タングステン」ハ 同者リ 〇、〇九 乃至 〇 對度ヲ要スルヲ以テ 一七八 噸  
等ノ如ク推定シ、更ニ石炭、石油、ゴム等モ亦鋼鐵ニ對スル消費  
率ヲ探定スルニ依リ概定シ得ベキモ、今ハ其ノ時間ナキ  
爲割愛ス

石油ニ関シテハ次ノ如キ資料アリ、大戦中 英海軍ハ 九一〇万  
噸、同陸軍ハ 一三一、九万噸、佛陸軍ハ 一八五、五万噸 獨逸ハ  
一八〇〇万噸ヲ消費セリト。

内閣

三 戦争ト生産所要勞働力

戦争ノ経済依存關係ヲ示ス一ツノ指標ハ兵士ト銃後勞働者ノ比率ナリトス。此ノ比率ハ戦争ノ規模及形態ニ依リテ大トナリ。又軍需隊ハ機械化サレ、動力化サレ、技術化サルニ伴ヒ大トナリ。又軍需資材ノ消耗率大トナレバ益々此ノ比率ハ大トナル性質ヲ有ス。ポランドノ一軍事記者ノ計算ニ依リハ一軍團(兵力約十八万)ノ日ノ銃撃ニ要スル銃砲彈ノ消費量ハ合計九八、〇〇〇發、此ノ生産ニハ約十萬勞働日ヲ要スト稱シ居リ。戦線兵士一名ニ對スル銃後勞働者員數ハ研究者ニ依リ一様ナラズ、

メンデナル一少佐ハ一對八ト云ヒ、アメリカノ元國務卿「デヴィス」ハ一對十七ト計上シ、ホエーハ「防衛」ノ場合ハ一對十五、攻撃ノ場合ハ一對十七乃至二〇ト稱ス。最近、紐育「タイムズ」(一九三九、一〇、一五)ニ依リハ現在ノ戦争技術ヲ見テ英國側

ニ於テハ一對五スセ。獨逸側ハ一對一〇Sニト算定スリ。  
 今尚大戦ノ獨逸ニ引例シ之ヲ吟味セシニ、  
 戦後ニ於テ勞働スル者ハ一六才乃至五〇才ノ男子ニシテ之ハ總  
 人口ノ約ニ五%ヲ占ム。

例 独 (一九三六) 及 英 (一九三七)

伊 及 佛 (一九三六)

米 日 (一九三五)

二六%

二四%

二七%

之ニ女子、老少年ノ勞働力ヲ勤員スレバ之亦約ニ五% (前述  
 参照) 合計五。%ト概定シ得ルヲ以テ獨逸大戦時ノ  
 總人口六八〇〇万ノ半数三四〇〇万ハ戦後勞務者ト見ル、  
 新興参考資料ヨリ前線ニ在リシ兵力ハ平均四三〇万十  
 ルヲ以テ此ヨリ比率ヲ求ムレバ 其ハ九ヲ得  
 即チ軍事技術、科學力ノ進歩状況ヲ推定セル 紐育、タイム  
 ス、比率が最も 信じて可ナルが如シ。

内 閣

然ラバ今次歐洲大戦ニ於ケル獨逸ノ場合ニ就キ動員兵力ヲ  
 推定スルニ比率キハ及一〇ノニツノ場合ヲ採レバ總人口ハ  
 九四六一万ナルヲ以テ前者ノ場合ハ五二五万、後者ニテハ四三〇  
 万トナル。之ニ占領地域ノ兵力働力利用ヲ概スニ〇〇カト見  
 レバ之ダケ動員兵力ノ増加ヲ可能ナラシムベキヲ以テ七三〇  
 万乃至六三〇万程度ト推算シ得ルモノナリ。  
 即チ現狀ニ於テハ略動員兵力ノ限界兵ニ近キヲ思ヒシメ、  
 銃後生産力モ亦過去ノ蓄積ヲ概不消費シタルヲ想像  
 シ得ルヲ以テ、之以上動員ヲ長時日ニ亘リ繼續スルニ於テハ  
 独逸國內ノ生産力減退セサルヲ得ズ、茲ニソノ限ヨリ得テ  
 ル地域ノ生産力利用ニ新機軸ヲ設クニ非レバ、戦半繼續  
 カモ峠ヲ越スニ非ルカヲ想ヒシムルモノアリ。



機密

第四回 綜合研究課題作案書 (十二月十五日提出)

岡部 研究生

將來戰ニ於ケル勞務動員ノ規模ニ関スル考察

一 中一 次歐洲大戰主要交戦國ニ於ケル總人口ト動員兵カトノ關係ヲ觀察スルニ (總研資、オ一表及オ十表) 其ノ最大比率ハ一〇・〇ニシテ (ドイツ)、之ハ五代戰ニ於ケル兵力動員ノ略最高限度ヲ示スモノト認めラル 總人口ノ半若ク田カ子トスレバ、其ノ四〇パーセントヲ動員シタルコトナリ 又壯丁ハ其全員ヲ一應動員セラレタコトナル 動員率ノ低キ國 (英・露) ニ於テモ一割以上ノ動員ヲ行ヒタルヲ見レバ、近代戰ニ於ケル動員規模ノ最小限度ヲ推察シ得ヘシ

我ニ就テ之ヲ觀ルニ、内地人口ハ七三二一万人ナルヲ以テ、動員可能ノ一應ノ限度ヲ其ノ一五パーセントト觀ルトキハ約一〇〇万

總力戰研究所

ノ動員能力ヲ得ルニ 尚外地ノ動員ヲ以テ是ニ於テ胸算  
スルトキハ若干之ヲ増加スルコトヲ得 例テ戦場兵員トシテハ略其  
半數約五〇万人ヲ計算フルヲ得ル

我軍壯丁全數ヲ一<sup>一〇〇</sup>万ト觀ハトキハ右動員兵力ハ略々  
之ニ近キモノナルコトヲ知ルベシ

二 平時兵力ト大戰末期ニ於ケル戦時兵力トノ關係ヲ交戦  
各兵ニ就キ平均ニ觀察スルニ 末期ニ於ケル兵力ハ戦前  
ノ約四・五倍ニ増大シ 同戦中ニ半ニ比シテモ尚二倍ニ膨脹  
セリ

三 大戰末期ニ於ケル戦場兵員ト後方兵員トノ關係ヲ觀察スルニ  
英・米等 兵力ニ余裕アル國ニ於テハ 後方兵員ハ戦場兵員  
ノ二倍近クヲ有シ 独・佛等 兵力ヲ涸竭セルニ至テハ 一・二倍

程度ニ止マルヲ知ルベシ

四、戦争ノ終ル後ト軍需工業労働ノ地位

開戦前二年（一九一七年）ニ於ケル各小、軍需工業労働者ノ全工場労働者ニ対フル割合左ノ如シ

独	二七%	英	一一%
露	二三	米	七
伊	二五	伊	二〇

右ノ表ニ依レバ、英、米ヲ除ク各小ノ軍需工業労働者ハ全工

場労働者ノ二割以上ヲ占ムルガ、之ハ尚該国ニ於ケル工業全

般ト軍需工業トノ割合ヲ示スモノナルベシ。又右ノ表ナガ

英、米ニ於テ特ニ低キハ、想像ニ難カラズ。然ルニ大戦前四年

（一九一七年）ニ於テハ右ノ率ハ略五〇%ニ達シ、軍需工業

比重ノ増大ヲ示ス。才五十三表中、露、伊ノ率七六%ニ対シ

「ハ疑問ヲ保留フルトシテ、一戰時經濟ノ遂行スル上ニ於テ軍需工業ト爾他ノ工業トノ割合ハ（三時ニ於テ国防保ヲ含ム）大体六対四ニ止マリヘシモト解状シ得ベキカ  
但し十五十三ニ中各ノ工場労働者數ハ尙少ニ失セサルノ疑ヲ存ス」

五 戰爭ノ要求ニ應ズル工業労働ノ規模

(一) 前大戰期間中工業労働ノ既ニ完成シタリト認ケル  
一九一七年ニ於テ、工場労働者總數ノ人口ニ対スル比率ヲ主要な戰時ニ就キテ觀ルニ略一割前後ニ止ル（例トイフハ八分九厘）コハ工業労働ノ極限ヲ示スモノトシテハ低キニ失スルニ非ザルカ？  
將來戰ニ於テハ一層高率ノ労働力ガ予想セラルベシ

(二) 工場労働者ト戰場兵員トノ比率一ヲオテ十表及オ十三表

總力戰研究所

ニ基キ觀察・計算スルニ左ノ如シ

英 二・八倍

佛 一・九倍

独 一・五倍

(註) 米ノ八倍ハ特殊事情ニ依ル

即チ工場労働者ハ戰場兵員ノ三倍弱ニ過ギザルヲ知ル。此ノ比率ハ將來戦ノ形態ニ於テハ若干低キニ失スルモノト認ムベキモノナランカ?

5  
(三) ポソニーノ研究(今日ノ戦争)ニ依レバ將來戦ニ於テハ兵士一人ニ對シテハ、九・五人又ハ一・二人乃至一・五人ノ工場労働者ヲ銃後ニ於テ必要トスル。同書中ニ於テメンデハ第一線ノ戦士ト銃後ノ労働者ノ割合ヲ一・〇〇ト計算シ、デヴィスノ計算ニ依レバアメリカニ於テハ第一線ノ戦士對シテ工場労働者ノ比ハ一・二〇ナリト。惟フニポ氏ノ研究ハ機械的ニテ若

内閣

干尚大ニ失スルニ非ズヤト認ナラルモ  
 (一)ト併ヤテ將來戦ノ  
 労務動員ノ規模ヲ研究スルニ資スル所多シ  
 (註、ホ氏ノ  
 標準ヲ、英及独ノ前大戦末期ニ於ケル戦場兵力ニ當テハムレバ、各  
 一七二〇万人及三九四〇万人ノ工場労働者ヲ必要トスル計算トナル)  
 但シ、兵士一人ニ對シ労働者一人ヲ必要トストイフコトハ戦争経  
 済学ノ通説ナルヲ以テ特ニ研究ノ要アリト認ム  
 (四)即チ、之ヲ我ニ當テハトテ見ルニ假ニ一〇〇〇万人ノ動員  
 可能ニレテ、其ノ半数五〇〇万人ヲ戦場兵員ナリトセシカ、右  
 兵員ヲ維持スルニ要スル工場労働者數ヲ其ノ三倍トセバ  
 一五〇〇カニテ足ルベキモ、九・五倍ヲ要ストセバ、四七五〇万ノ龐大ナル  
 數ヲ必要トスルニ至ル。右ハ現實兵ノ労務動員ノ規模ト比ベテ  
 其ノ可能性ヲ考慮スルノ必要アリ

六、才ニ面綜合研究ニ於ケル三川研究生ノ労務動員ニ関スル

内

圖

實証的研究ニ依ル。我々ノ勞務資源ハ、凡ソ二三三四万人ニシテ、其  
 中、軍需・生括等重要産業部門ノ既就業者ニ九〇万人、必要農  
 官應・官業従業者 九〇万人、学生生徒一〇八万人、必要農  
 村人口九三〇万人、兵員二〇〇万人計一六八万人ヲ控除スレバ  
 差引 六二〇万人ハ尚 勤勞可能ナリトノ事ナルモ、(一)兵員  
 二〇〇万人ハ過小ニ失スルヲ以テ、之ヲ假ニ五〇〇万人ト爲シ、(二)  
 兵員 差ニ三倍スル一、五〇〇万人ノ勞働者ヲ必要トスルモノ  
 トスレバ、所要人員 三〇〇〇万人ニシテ、差引 六九六万人ノ勞  
 務資源ノ不足ヲ計フルコトトナルリ。勞務資源拡張ノ必要  
 コ生ズ、右ハ極ナテ粗陋ナル觀察ナルモ、將來戦ニ於ケル  
 勞務勤勞ノ規模ノ一斑ヲ示規フコトヲ得ベシ。

七、女子及幼少勞働ノ進出

(一) 米田ニ就キテ之ヲ觀ルニ、各工業分野ニ於ケル女子ノ就職

8  
増加率ハ男子ノソレニ數倍ス

(二) 英米ニツイテ之ヲ觀ルニ、戰爭ノ経過ニツキ、女子ノ家庭婦養  
家庭的職業ヨリ工業界ヘノ進出著キヲ見ル、就中、重  
化学方面ヘ増増ス

(三) ドイツニツイテ之ヲ觀ルニ女子ノ業、労働者ハ一九一八年ニ於テハ  
一九一三年ニ比シ、略倍増ス

以上ノ趨勢ハ幼年労働者ニ就イテモ同様ナリ、而テ各區別  
ニ前ホシタル傾向ハ其他ノ如クニ就キテモ之ヲ認めルコトヲ得  
之ヲ要スルニ、將來戰ヲ豫想スル労働動員計畫ニ於テハ、労働ノ  
供給源ヲ益々多ク、女子ニ求ムルヲ要スルハ明ニカナルモ、其ノ  
極限ニツキテハ、断言スルヲ得ズ

八 將來戰ニ於ケル労働動員源トシテ、外地人、外人及俘虜  
コ或程度計畫シ得ルベキモノナルモ、之ヲ幾何見込得ルベキカ



ハ各思ノ特殊事情ニ依ルモニテ、共通ノ率ヲ濫ニ説明  
 スルコトハ困難ナリ

(終)

内閣

第四回綜合研究課題答申  
昭和十六年十二月十五日提出

第一期研究生成田乾一

交通上ヨリ見タシ将来致、榎根

一、列強ニ於テハ鐵道輸送状況

先ツ列強、鐵道網ヲ瞥見セハ第一表、如ク列強  
相接ニ際シテ、軍ヲ上、必要ヲ政ヲ諸國於テ著  
シキ發達ヲナシテハ贅言ヲ要セズ、

今故ニ引例シテ過去十五年間ニ於テ發達、状況見  
ルニ第二表、如ク前大戦當時ニ比シテ延長ニ於テ何  
等發達、跡ヲ又輸送老救ニ於テモ十五年後、一  
九三八年ニ尚過去、ソレニ及ハサルヲ見ル可シ、

フコニテ、状況モ亦同様ナリ（第三表）、即チ如斯状況  
ハ過去十数年亦ニ於テ既ニ鐵道、發達ヲ遂メテ

代國家ニ共通セルト云ハル可シ、英國ヲ除ク西歐諸國ハ何レ  
モ國土相接シ終局上軍事上交通ノ要ニ於テモ尚如上ノ情勢ニ於テ軍  
指向セザレハ可クサル諸邦ニ於テモ尚如上ノ情勢ニ於テ軍  
用路線ト行海路線ト、唯今合セニ於テ自ラ鐵道建設  
ニ限度アルヲ知ル可シ。

將來戰ニ於テモ軍ヲ輸送上ノ観点ヲ、鐵道輸送一極  
相ヲ推測スルニ概ニ現状ヲ出テサルモノ、如シ  
二、近代ニ於ケル戰時輸送ノ趨勢

前大戰ニ於テ、旅軍、出動兵力最大ニ達シタル時期ニ  
至リテ約ニ由三六ヶ師團（一九一八、六）ニシテ、現大戰ニ於テ  
北東部國境ニ百ヶ師團ヲ配備シテ、對英佛作戰ヲ  
遂行セシ時期ニ至リテ五〇ヶ師團ヲ出テサル可シ。  
一國ノ兵力ニハ人口、自然増加率、國內生産力維持  
等ノ諸原因ニテリ、制約セラル、將來戰ニ於テモ動員ニ関

内

このハ自ラ或限有スルモノナル可シ。依テ我團、趨勢  
ハ人カヲ補フニ物ヲ以テシ、科學兵器ノ質ハ量ノ進  
歩弁達ヲ促進シ、漸時各國ハ機械化セリ、既ニ  
前、現兩大戰ニ於テハ一師團ノ總重量ハ概テ次ノ  
如ク大差ヲ生スルニ至レリ

(1) 現在一師團ノ重量(軍直部隊ヲ含ム) 一五〇、〇〇七

今様甲師團ノ重量( ) 二一、〇〇〇七

(2) 前大戰一師團ノ重量 五〇、〇〇七

即チ三倍乃至四倍ノ増加トナリ之ヲ國境線ヲ集中ス  
ル為ニ輸送方法ハ鉄道前述ノ如クナリセム之ノ過剩重  
量ハ自ラノ様動力ヲ以テ集中ト展進ヲナシ得ル様甲ノ  
弁達ニ後々サルヘ可ラス、  
斯クテ我面被隘ナル西歐ニテハ必然的ニ軍用道路  
急激ニ弁達スルニ至レリ

主要國ニ於ケル道路ノ状況第七表ノ如シ。而モ道路ハ  
急速ニ補装セラル、傾向ヲ示シ於テハ、ハ、  
キヤシ合併以來補装路長一三、〇〇〇軒ヲ有シ尚五、〇〇  
ロヲ建設中ナリ、(第八表)

斯クテ各國ノ走行車輛ノ生産ニ努力シ來リ於テニ於ケ  
ルソノ生産増加ノ状況ハ一九三三年ヨリ五ヶ年間ニ倍セ  
加シ、一九三八年迄ニ於テ牽引車生産ハ五七%ノ増加  
率ヲ示セリ、茲ニ於テ軍需資源トシテガソリンノ必  
要ハ激化シ、燃料ノ過不足ハ將來幾ニ於ケソノ輸送  
規模ヲ左右スルモノト云フ可シ、(第九表)

### 三、海運ノ状況

列強中日英兩國ハ何レモ海國ニシテ軍ヲ交通ニ於テ  
海運ノ占ムル地位ハ絶対ニシテ自ラ他ト作戦ノ根相ヲ異  
ニス

美米兩國、兩大戰ニ於テ海運状況ヲ概観セハ第一  
一〇表ノ如シ。

英國ハ二〇年同リ通シ船舶總噸數ハ百餘萬噸ヲ減シタ  
ルモ、米國ニ於テハ百七十萬噸ヲ增加セリ。持テル國英至  
ニ或保有量ヲ維持シテ、今次大戰ニ臨ミ可ル、消耗  
シ被テ、依然トシテ抗戦力ヲ保持培養シテ、即チ  
噸數ニ於テ前大戰ニ七三%。現大戰ニハ七一%、民需  
ヲ保有シテ、戦争遂行スルヲ得タリ、  
之ニ及ビ米國ハ四七%ヲ軍需ニ供シ民需ヲ極端ニ壓迫  
セザルヲ得ザリシ状況ヲ看取スルヲ得可シ。  
又第一一表ニ見ルル、如ク勝者ハ敗者ノ約十倍ノ船腹  
ヲ有シテ、將來益々長期戦化スル場合海運力、  
強弱ハ戦争最終ノ決ニ重大ナル影響ヲ有スルモノナ  
ルヲ看過スルヲ得ズ。

四、将来我ト航空

今次大戦ニ於ケル独乙ノ空中輸送作戦ハ、マダノ線突破、ウレタ島奇襲作戦等ニ警異的戦果ヲ収メタルニ鑑ミ、小兵力ヲ次テ奇襲戦法ニヨリ一局面ニ對シ决定的打專ヲ与ヘ、全戦局ヲ有利ニ導ク為将来ヲ空中輸送ニヨリ戦法ハ益々利用セラル可キヲ予想ス。ソノ要求度大ナルニ應ジ輸送様モ次第ニ改善セリ。將來「機械化」セリタル相壹量ノ兵力ヲ空輸ニ得ル如キ奔達ヲ予想スニ難カラズ。

五、日本ノ将来我ト軍事輸送

海國下ニテ地理的ニ絶對的制約ヲ受ケタル帝國ノ輸送上ノ總莫ヨリ、ソノ将来我ト様相ヲ予見スルハ極メテ肉題、多キヲ覺ス。

今欧州ニ於ケル鉄面ノ特長ヲ見ルニ次ノ如シ、(第一

一、交通ヲ妨碍スル大山塊偏在ニアルヲ。  
 二、面積的大國少キヲ。  
 三、英國ヲ除キ各國ハ同一地統キニアルヲ。  
 四、各國境線短キナルヲ。  
 五、各首都ト國境線ト距離短キナルヲ。  
 六、全戦面狭ナルヲ。  
 七、勝敗ノ決ハ海戦ヲ以テ陸戦ニアルヲ。  
 八、斯ニ状況ニ在リテ緒我ニ有利ナル態勢ヲ占ルニハ我線ニ對スル兵力ノ集中、轉用ノ易キ速ニ極メテ大ナル關係ヲ有ス可ク、之ヲ為大量ノ兵力ヲ急速ニ輸送集中ニ迅速ナル機動力ヲ以テ展進スルヲ要ス、  
 然レ共前述諸由因ニヨリソノ將來我ニ於ケル交通ノ概ヲ予見セハ概テ各國ノ鉄道ノ限度ニ達シアルヲ以テ道路ノ改善ヲ急テ進メ、  
 但シ走行車輛ヲ以テ駐屯地ヨリ



第一線ハ自カヲ次ケ集中、展進、展開ヲ一章ニ敢リ  
 スルモノ、如ク思考ス、  
 之ニ反シ帝國ハ四圍ノ環境凡ソソノ趣ヲ異ニシアリ、  
 我面ハ広大ナル大陸トシテ海洋ニアリテ本土  
 ト第一線トノ距離ハ欧米ノソレニ比シ數倍乃至十數倍  
 ニ及フ可シ、依テ軍事輸送ノ実ヨリセハ帝國ハ世界  
 列強中最モ不利ナル地理的ニ馬路件、トニ在リ、(第一  
 ニ表参照)、攻勢ニ於テ斯ノ如ク防禦ニ於テハ如何  
 耶、或ハ緒戦ニ於テ大陸ノ戦畧要突、海上ノ作戦  
 基地ヲ先取セラル、時ハ序盤ノ布石ニ於テ極メテ不利  
 ナル体勢トナル可シ、  
 斯クテ帝國ノ將來戦ニ於テハ、コノ兵力集中ノ一大維綱  
 ヲ克服シテ緒作戦ヲ有利ニ展開セシム、絶對的ニ  
 大陸及ヒ海洋ヲ含ム基礎國防圈ノ確立ヲ必要ト

内

スルナリ、即チ帝國ノ外周ニ強力ナル防衛圈ヲ確保  
培養シ、平時ニ於テ常ニ集中ノ態勢ニ置キ、所要  
ニ應ジ、航空機及ヒ機甲兵力ヲ以テ一挙ニ敵ノ  
第一陣地ヲ破摧セサルハ可ク、  
然リトモ尚大陸ニ於ケル鐵道ト帝國保有ノ海運力ハ  
確保育來ニ努ムルノ必要アルハ言フ後々又サルトモ  
シテ、之カ經營ハ民間ニ放棄セリシス、平時ニ於テ既ニ  
將來戦ヲ予想シテ、國家ニ於テ大方策考カルハ可  
クサルモノト思考ス。

次上

(戰運) 第一表

世界主要國ニ於ケル鐵道網比較表

國名	面積 千方 里	鐵道總 長 千 里	千平方 里當 り	備 考
南 洲	一、三〇三	一〇〇	八	何レモ本國ノミ
支 那	一〇、三六二	一〇〇	一	
ア メ リ カ	七、八三九	三、七七	四、九	
蘇 聯	六、七三五	八、四	一、四	
獨 逸	四、六九	六、一	九、七	
イ キ リ ス	二、四三	三、〇	一、二、三	
フ ラ ン ス	五、五一	四、二	七、七	
イ タ リ ヤ	三、一〇	一、六	五、二	

註、大部分ハ鐵道省調査、一九三八年現在

134

102

Handwritten notes and symbols, including a circle with a cross and other illegible characters.

(戰運) 第二表

獨乙ニ於ケル鐵道發達狀況

年次	總延長數	機車		貨車	發送電數 百萬屯	備考
		機關車	客車			
一九一三年	六一、四〇四	二、七〇〇	六、一七〇	五、一〇		
一九二六年	五三、三三六	二、九〇〇	六、六一〇	三、八〇		
一九三八年	六一、三二八	二、三〇〇	六、三〇〇	四、九〇		

(戰運) 第三表

師團西ニ於ケル鐵道發達狀況

年次	總延長數	機車		貨車	發送電數
		機關車	客車		
一九一三年	四一、〇〇〇	一、四〇〇	三、七〇〇	不詳	
一九二六年	四一、六七九	二、〇五〇	五、一六〇	三、二〇	百萬屯
一九三八年	四二、六一二	一、七〇〇	四、七五〇	一、三〇	

(戰運) 第四表

前大戰時ニ於ケル獨乙軍輸送所要車輛調  
輸送兵力量  
所要車輛數

一ヶ軍團(工兵隊及中重隊共)	六〇一〇
一ヶ豫備軍團(全)	三三二五
一ヶ兵隊	一一七五

(戰運) 第五表

前大戰初期ニ於ケル獨車ノ輸送調

輸送車輛	二〇、八〇〇
人員	二〇七〇、〇〇〇
馬匹	一一八〇、〇〇〇
軍需品	四〇〇、〇〇〇

註、一九一四年八月四日一六日ノ輸送最高潮時

(戰運) 第六表

前現大戰ニ於ケル補軍兵力ト輸送力比較詞

動員師團數	一九一八年	一九四一年
總師團重電	(A) 二三六 萬屯	(B) 二五〇
Aヲ日トセル信數	一〇〇 百萬屯	三三六
總道輸送力	三八七	四九〇

註、一ヶ師團ノ重量決定基礎ハ「太平洋超越性」ニシル

(戰運)

(附第七表)

主要國道路密度表

國名	面積	道路軒數	千方軒當り
日本	三八三	一一九	三一
滿洲	一三〇三	一一	八
支那	一〇三六二	一一〇	一一
アメリカ	七八三九	五二二八	六五四
蘇聯	二一六三五	一二七三	五八
獨逸	四六九	二一三	四五
イギリス	二四三	二八七	一一八一
フランス	五五一	六三一	一一四五

註、概ネ國道 府縣道及ヒ該管道路軒數ヲ舉リ

(戰運)

第八表

獨乙及ヒ米國ノ補裝路

國別	獨道全長	補裝路	百分率	備考
獨乙	二一三 千	一三	六	建設中五〇〇〇千あり
アメリカ	五一二八	一一九	二一	

(戰運)

第九表

獨乙ニ於ケル自動生産額

種類	年次	備考
乗用自動車	一九三三年 五五〇千台	一九三八年 一、三〇〇千台
貨物自動車	一七五	三八〇
總生産量	一、五三〇	三、三六五
		自動自転車ヲ含ム



(戰 運)

第十表

前、現兩大戰ニ於ケル英米兩國徵用船舶噸數 (單位千噸)

總 噸 計	英		米	
	一九一八年	一九四一年	一九一八年	一九四一年
徵用船舶噸數	一九三二〇千噸	一八〇〇〇	五〇一九	六八一五
徵用比率	五、二七七	五、〇〇〇	二、三五三	九九五
出動兵力	五、三〇〇千	一	二、〇〇〇	一
	二七%	二九%	四七%	一五%
		增		增
		減		減
		(-) 二七七		(+) 二七九六
				(-) 一、三五八

註、英國出動兵力ハ各戰線全部ヲ含ムモノ

(戰運)

第十一表

前大戰時ニ於ケル聯合國及中立國船腹調(單位千屯)

	開戰當時現在	喪失	新造	各年末現在
一九一四年	四二、四四四	六八一	一、〇一二	四二、七七五
一九一五年		一、七二四	一、五〇二	四二、三五三
一九一六年		二、七九七	一、六八八	四一、一四八
一九一七年		六、六二三	二、九三七	三七、四七七
一九一八年		三、一七九	四、〇〇八	三八、二八六
計		一五、〇〇七	一〇、八四九	

同盟國側

一九一四年	六六四八	三一五〇	一、〇二五	四六二三
-------	------	------	-------	------

五、戦費ノ見地ヨリ見タル戦争ノ規模及形態

(一) 時代が進ムニツレ戦争が総力戦的性格ヲ帶フルニ隨ヒ戦争ノ規模及形態ハ愈々拡大複雑化シ之ニ要スル戦費ハ其ノ絶対額ニ於テモ又其ノ國民所得ニ對スル相對額ニ於テモ増大シ来スコト(第一表乃至第四表)以上ハ過去ノ戦役ニ於テ初メテ総力戦ト稱セラル、第一次世界大戦ニ於テ特ニ顯著ナリ其ノ理由トスル所概ネ次ノ如シ

(イ) 総力戦ハ國家及國家群間ノ全面的戦争ナルコト

(ロ) 総力戦ハ立体的戦争ナルコト

(ハ) 総力戦ハ長期戦タル傾向ヲ有スルコト

(ニ) 総力戦ニ於テハ戦争ノ規模及形態が拡大複雑化スル

タメ財政ニ對スル戦費ノ要求ハ其ノ本質上殆ニト無限ナルコト

其ノ理由概ネ次ノ如シ

(イ) 科學ノ發達ト兵器技術ノ進歩

(ロ) 國民ノ軍隊化ト國家總動員

(ハ) 軍備及戰備競争

(ニ) 消耗戰ト長期戰

(三) 一國ノ戰費調達能力ハ一國ノ總生産力(國民所得)ニ

依リ制約セラル、コト 何トナレハ戰時ニ於ケル

國民經濟其ノ總生産物ハ

(イ) 縮少再生産ヲ防止スルタメノ生産増加

(ロ) 國民生活ノ安定確保ノタメノ民需消費

(ハ) 軍需

ノ三者ニ配分セラル、ヲ以テナリ

(四) 総力戰ニ於テハ「悪性インフレ」ノ發生ニ因ル國民經濟ノ

破壊ヲ防止スルタメ戰費調達手段トシテ極力租稅

總力戰研究所

(國民購買力ノ強制徴收)ニ依ル努力が試ミラル、ユト

(第五表)

(五) 総力戦ニ於テハ戦費調達能力ヲ最高度ニ發揮セシムルタメ國民ノ消費規制(従ツテ國民生活ノ簡易化)、財政援助ヲ受ケニカタメノ與國ノ獲得及重要資源ノ獲得等ニ格段ノ努力が拂ハル、結果戦手ノ規模及形態ニ逆ノ影響ヲ与フルユト

(六) 総力戦ニ於テハ國防國家ノ完成が開戦前ニ於テ要求セラル、ユト 従ツテ従来ノ戦役ニ於テ開戦期間中ノ戦手支出ヲ以テ戦費トナス觀念ハ將來戦ニ於テハ意義甚キユト

第一表 各戰役ニ於ケル戰費(總額及平均一日當)比較  
 單位 百万円

戰役別	國別	總額	平均一日當
普日佛戰爭 (一六七〇—一八七一)	普 佛	一、五三一〇	八、三
南亞戰爭	英	四、四〇〇	五、二
日露戰爭	日 露	二、八七三	五、二
第一次 世界大戰	英 日 露	二、四二〇	四、四
歐洲大戰	獨 佛	一、一三、一〇〇	一、五七、
		九、八、八〇〇	一、二〇、
			一、四、五、

第二表 第一次及第二次世界大戰主要交戰國戰費比較

年次	第一次大戰			第二次大戰		
	年次	戰費 (百萬元)	佛 (百萬元)	年次	戰費 (百萬元)	佛 (百萬元)
一九一四年	一九一四年	三,五七〇	六,六〇八	一九四一年	三,五〇〇	六,〇〇〇
一九一五年	一九一五年	一,三九九	一八,二七七	一九四二年	三,二二〇	五,〇〇〇
一九一六年	一九一六年	一,九九三	二五,〇九二	一九四三年	三,五〇〇	六,〇〇〇
一九一七年	一九一七年	一,四〇二	三一,六〇九	計	八,四一八	一五,九九〇
一九一八年	一九一八年	二,一九八	四〇,五八七			
一九一九年	一九一九年	三〇,九三七	二八,二〇八			
一九二〇年	一九二〇年	一五,三三七	一五,九九〇			
一九二一年	一九二一年	七〇,〇〇〇	一五,九九〇			
一九二二年	一九二二年	二四,九一〇	五〇,〇〇〇			
一九二三年	一九二三年	六〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇			
一九二四年	一九二四年	六〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇			
一九二五年	一九二五年	六〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇			
一九二六年	一九二六年	六〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇			
一九二七年	一九二七年	六〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇			
一九二八年	一九二八年	六〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇			
一九二九年	一九二九年	六〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇			
一九三〇年	一九三〇年	六〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇			
一九三一年	一九三一年	六〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇			
一九三二年	一九三二年	六〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇			
一九三三年	一九三三年	六〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇			
一九三四年	一九三四年	六〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇			
一九三五年	一九三五年	六〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇			
一九三六年	一九三六年	六〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇			
一九三七年	一九三七年	六〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇			
一九三八年	一九三八年	六〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇			
一九三九年	一九三九年	六〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇			
一九四〇年	一九四〇年	六〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇			
一九四一年	一九四一年	六〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇			
一九四二年	一九四二年	六〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇			
一九四三年	一九四三年	六〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇			
一九四四年	一九四四年	六〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇			
一九四五年	一九四五年	六〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇			

總力戰研究所

第三表 第一次世界大战主要交战国一周年均战力基比较

年别	英国	法国	德国	以上合计	交战国合计
一九一四年	三五	三五	三三	一〇七	一五〇
一九一五年	七四	五一	六	一九二	二七五
一九一六年	一一二	七〇	〇	二八〇	四〇〇
一九一七年	一四六	八八	二五	三五〇	七〇〇
一九一八年	一五七	一一〇	五五	四二二	九〇〇
一九四〇年	九〇		三四		

单位 百万人



第四表 第一次大戰主要交戰國戰費人口一人當及國民所得之割合

一九一三年非德控算

國別	戰費		人口一人當		國民所得		國民所得之割合	
	總戰費	單位百弗	單位一弗	順位	國民所得	順位	一九四〇年之割合	
英	二四、一四三	(單位百弗)	五二四	一	三六、九	一	五九、四%	
美	一一、二〇八	(單位百弗)	二八〇	三	二五、六	三		
法	四、四八九	(單位百弗)	一一四	五	一九、二	六		
蘇	七、六五八	(單位百弗)	四四	七	二四、一	五		
日	一七、三三七	(單位百弗)	一七六	四	一五、五	七		
德	五、四三八	(單位百弗)	一〇八	六	二四、二	四		
意	一九、八九四	(單位百弗)	二九二	二	三一、六	二	五〇、〇%	

總力戰研究所

一九四〇年  
 英國戰費(三、三二〇百萬磅) 國民所得(五、五八六百萬磅)  
 德國戰費(五〇、〇〇〇百萬馬克) 國民所得(一〇〇、〇〇〇百萬馬克)

第五表 第一次大戦主要支那國戦費調達法

國別	戦費総額	割合	公債借入金	割合	租税其他	割合
英國	八、四六八	一〇〇%	七、一八六	九五三%	一、二三一	一四・四%
佛國	一五三、七〇二	一〇〇%	一五三、七〇二	一〇〇%	〇	〇・〇%
他國	一五九、九〇九	一〇〇%	一五九、四四八	九九八%	四六〇	〇・二%

單位 百万(磅、佛、麻)

機密

ソソ  
L 聯邦、總戰力ト大陸超越性

志	白	野	芥	清	福
村	井	見	川	井	田
山	山	山	川	井	田
研	研	研	研	研	研
究	究	究	究	究	究
生	生	生	生	生	生

内閣

前 言

一、本作業ハ独サ蘇開戦直前ニ於ケルソソノ聯ノ總  
戦力ヲ主トシテ検討シ、併セテ其ノ情勢ニ於ケル  
極東方面ニ指向シ得ル戦力及独サ蘇戦ニ依ル  
消耗ヲ檢討セリ。

二、独サ蘇戦ニ依リ知り得タル諸元モ開戦直前ノ  
戦力ニ逆算セリ。

目次

第一章 ソソル聯ノ總戰力

第一 要旨

第二 地理的戰力

第三 人的戰力

第四 国情ノ特異性ノ總戰力ニ及ボス影響者

第五 資源及產業力

第六 交通力

第七 軍備

第二章 極東ニ使用シ得ル總戰力ノ檢討

第三章 独蘇戰ニ依ル總戰力ノ消耗

第四章 大陸ノ超越性

内閣

# 第一章 ソ聯、總戦力

## 第一要旨

一、皇國、米英ニ対スル大東亞戦争開始セラシ海陸空緒戦、  
赫々たる戦果、全世界ヲ驚愕セシメ、世界改造、巨歩ヲ進メ、  
然リ而シテ此向ト雖現下皇國、取テ南心ヲ要スル、北ソ聯、動向ナルニ  
依然變化ナク一方独ソ相闘ニ既ニ半成、ソ聯戦力、消耗セキニ  
ト雖且其戦局、推移如何ナラントモ、ソ聯、有テ絶大ナル潜戦力、  
將來ニ巨ク依然 欧亞ニ跨ル大戦力トシテ残存シ、何ハ、秋カハ中ズ總力  
战的再進ニ依リ之ヲ排擠セザルベカラザル、我國、宿命トシテ備スベク  
即チ茲ニソ聯總戦力、檢討ニ南ニ問題ヲ提出スルニ先所ニ以テ  
信ズ

二、ソ聯ニ億ニ至ニトスル人口ヲ擁フル、ニテ、民族、若サテ伴有シ  
世界陸地、六分一ヲ其領土ニ占メ、其處ニ伴育シ、包藏スル天然資  
源、莫大ナル、生産諸力、進展、国防、強化等、相合シテ

世界屈指、總戰力ヲ保有シテ斷ズベク、何レ一秋カニ於テ我  
總戰力、對テトシテ誠ニ不足ナキモト稱スベシ

其保有スル總戰力、絶好適右ノ如シト雖、其戰力が発動スル  
方ニハ其広大ナル国土及其内の特貨、爲戰力發揮、甚度ト  
持タカトシ判約ヲ棄スルニ志ス、東西ニ正面、各正面ニ發揮スベク  
戰力ハ一般情勢ノ如何ニ影響セラル、ニト持テ大志ニ著意スル  
ヲ要ス

### 三、ソ聯總戰力、強点在リ如シ

ハ人的資源大ニテ其自然増加率モ大ナルニテラス、民族ノ  
發展の潛勢力（民族ノ若ク）ヲ有シ、且國民ノ生活程度  
低ク困乏欠乏ニ堪フ

(二) 天然資源豊盛ニテ且其資源ノ均衡性ヲ有シ、特ニ  
食糧、自給率高シ

(三) 国土広大ニテ空間ノ有リ、持タカク有ス

四) 高度国防国家体制ヲ保持ス

五) 戦争目的ニ特異ナルモノヲ有シ之ヲ階級闘争ニ結ビテ  
(現在ニ變見觀シテ)

四) 聯總戦力ノ弱点

一) 交通力者弱ニテ国土ノ広大、資源及生産力偏在ノ克服性  
十分ナズ

二) 重要資源ニ於テ地域的偏在ヲ具ス

三) 産業が地域的ニ偏在シ且其原料資源生産地ト、立地的  
均衡ヲ保持シテヤラズ

四) 絶対強權、国内組織ハ堅キモ脆キ特性ヲ有シ一度ニ再崩  
ル、時ニ一舉ニ崩壊ヲ来スベキニト (然レドモ其堅固性ニ相対  
根強キモノナラ独蘇戦ニ於テ定証セウ)

五) 第一次産業ヲ五ヶ年計画以來強行的産業拡充ヲ実施  
シタニ爲ルニ、膨脹力ニ及ビキニト

内閣



五、結論

ソ聯總戦力ヲ概観スル下別紙第一如シ即チ

(一) 約三〇〇師団(約三〇〇萬名)陸上武力ヲ第一線トス 總戦力ヲ有シテ

ソ聯總戦力ヲ以テ東西同時ニ強攻スル戦争ニ實施困難

ナラシムルモ産業戦争及交通ノ發達ニ依リ遂ニ其遠征戦力ヲ増加スベシ

(二) 對東一正面戦争ニ於テハ約五〇師団ノ兵力ヲ以テ相當長期ニ

巨ニ戦争遂行可能ナリ

(三) 對西一正面戦争ニ遂行力ニ因リテハ現ニ展開可能トモナリ

(四) 現在迄ニ於テ独蘇戦ニ依リソ聯總戦力ノ喪失ハ約一三〇萬

人ニ

第二 地理的戦力

一 領土ノ広大

ソ聯ノ領土ハ約三〇〇〇萬平方科 即チ世界陸地ノ約六分一ヲ占メ

敵英帝國ニ次ガ第二位ヲ占ム而シテ地域ノ広大ニ

内閣

(一) 必然的、其伴有人的物的潜勢力ヲ大ナシト

(二) 戦争之際、広大なる空間、夫れ自体大ナル戦力ヲ生ズルヲ抗戦

五年に及ぶ重慶攻権、抗戦力最大、要素が支那、有る

地域、広大ナルに依ルヲ見ルモ明カナリ

(三) 然レドモ、總戦力、産出及甘移動發揮、急空間克服ニ多大

ナル困難性ヲ伴ヒ、ソレ聯總戦力最大、弱点が交通組織、若

弱、露是ニハ本質的原因ヲ示シ、ト稱スベキナリ

## 二、国土、單一連統

ソレ聯國土ノ敗壞ヲ見ルニ、沿岸、島嶼ヲ除キ、一個、凝集的

な大陸ノ地域ヨリ、ナラ、國土全体が單一連統セル領域ヲ示シ、國防上

及行政上、統戦力、結集ニ厚キト、彼ノ敵英帝國が広大ナル領土

ヲ有スルニ拘ラス、其領土各所ニ分布シ、戦力、結集、困難ヲ来シ

テ、此ニ対スベシ、然レドモ、其モ亦前項ト、同様に交通力發揮、

一島ニ一拠立ヲ形成シ、ナリ

三、陸軍國ナリ

国土構成が大陸國ナルニ前述べセル如シ然モ其國境ヲ見ルニ北ニ北  
米洋ニシテ國ヨリ其配備ノ要ナク東ニカカヤツカレヨリ日本海ニ  
及テ沿岸線ヲ有シテト雖我勢力ノ既ニ大陸ニ確キタ據ルニ  
ヲ有スルナリ之ト一衝突ニ止然レ大陸ニ於テ其決行ハシ西歐洲  
勢力ニ對スルニ勿論陸上作戰ヲ主トシ從テ總兵力ニ陸上兵力ヲ  
第一線トシテ其発動ヲ見ルニベキ性格ヲ有シカク

四、東西ニ正面戦争

ソノ點、打スベキ重要正面ニ在リ日西打線ニシテ其有る總兵力  
其間ニ面者ノ命令ニ於テ發揮セラルベキニ思ヒ去リテ使ニ見ルニ明カナリ  
然レドモ東南亞即南方印度方面ニ其指向正面ヲ有シカク  
見逃スベカラズ而シテカレル正面ニ大陸超越性ノ增加ニ從ヒテ敵  
ノ慮ヲ要スベキ方面トス

内閣

### 第三 人的戦力

#### 一 判決

量的ニ於テハ優勢ヲ示スモ 質ニ於テハ陥少シトセズ  
二 量的方面

人口總數一億七千万人ニシテ 世界人口ノハ%強ヲトメ且ツ其ノ  
人口増加率十モ年平均一、二三% (三百万人)ニシテ、人的資源ハ極  
メテ豊富ナリ。

(一) 戦時動員可能兵力量 二千万人

計算ノ根據ハ軍備ノ項ニ於テ述ブ。

(二) 勞務動員可能限度 三千五百万人 (内一千三百万人ハ女子)

第一次五ヶ年計畫ニ未勞働力増加ニ努カカシ來リタルモ、最近概ネ  
飽和矣ニ到達シタルノ感アリ。即チ第一次、才二次五ヶ年計畫ニ於テハ  
農村ノソフォーズ化ニヨリ農村ノ余剩勞働力ヲ工業部門ニ供給スルコト  
ヲ得タルモ、ソフォーズ化完成ト共ニ農村ヨリノ供給ハ困難トナリ、既ニ

才二次計画ニ於テハ増加労働力ノ六〇%ハ女子ヲ以テ充ツルノ已ムナキ  
状態ニ至リタリ。(別紙第一)更ニコノ労働力不足ヲ裏書スル事實ハ  
最近以労働能率増進ノタメニ政府が各般ノ方策ヲ講ジ、労働生  
産性ノ増大ニヨリテ労働力不足ヲ補ハントシツ、アル事實ナリ。(別紙第三)  
更ニ年令十五才ヨリ五十九才マテノ男子四千八百万人中戦時動員兵力  
二千万人及ビ農林民六百万人ヲ控除シ残余ヲ全部労働ニ充当スルト  
セバ、男子女子労働者ハ二千二百万人ナリ。之ニ動員可能婦人労働者  
一千三百万人(現在約九百四十万人ノ三割増)ヲ加フレバ、三千五百万人ニ  
シテ、現在労働者數三千万人(推定)ニ比シ、五百万人ノ増加ヲナシ得  
ルニ過ギズ。前述労働力不足ノ各種現象ト思ヒ合ハスナラバ、既ニ労  
働力増加ハ其ノ飽和点ニ近ツキツ、アルニテヲ知り得ベシ。  
以上、如キ諸点ヨリ推察ナシテ、労働動員可能限度ハ概ネ三千五百  
万人ト判断セラル。

三、質的方面

ソ連國民ヲ質的方面ヨリ觀察スル時ハ、尤一如何ニシテ、最近ソ連政府ハ弱矣、矯正ニ意ヲ用ヒアルモ、尚之が實現ニハ相当ノ長年月ヲ要スルモト判断セラル。

(一) 大小百餘ノ民族ヨリ國家が形成セラレ居ルニトハ、國民ノ精神的團結ヲ妨ガ、帝政時代以來民族問題ハ「ロシアノ癌」ヲナセリ（別紙第四）、赤色政權確立後ハ從來ノ少數民族壓迫政策ヲ改メ、少數民族固有ノ文化ヲ尊重スルト共ニ彼等ノ「ソヴェート」化ヨリ民族ノ統一ヲ計ラントシ、相當ノ効果ヲ收メツ、アルモ、一度「ソヴェート」政權瓦解セラカ、少數民族ノ離反スル可能性ハ尚多分ニ残存シ、ユ、ト矣ニ於テ民族問題ハ依然トシテソ連一一大弱矣ナリ。

(二) ソ連國家ヲ形成スル諸民族中總人口ノ五八%ヲ占ムル「ロシア人」性格ハ一トニシテ、之ヲ云ハバ純重ニシテ消極的抵抗カニ於テハ優レアルモ（古來屢々防禦戰ニ於テ優秀性ヲ示セリ）機敏性ヲ欠キ、特ニ産業部門

内閣

ニ於ケル作業能率ハ世界文明諸国ニ比シ著ク劣勢ヲ示ス(別表  
第五) 政府ハ之が対策トシテ「スタハコ」運動ヲ開始シ、能率増進  
ニ多大ノ努力ヲ拂ヒツ、アリ。

(三) 近年「ソ聯」教育ノ發達ハ著シク、九才以上全人口ノ約八割が識字  
能力ヲ有スルニ至リタルモ(別表第五)、「尚」吾民ノ智的水準ハ低ク  
特ニ技術的方面ニ於テ他国ニ比シ遜色ヲ有ス。

(四) 其ノ政治形態ハ完全ナル独裁政治ニシテ、過去ニ於ケル屢々ノ肅正  
工作ノ結果、最近ニ至リ漸ク安定シタルが如キ感アリ。更ニ共産主義  
教育普及ノ結果、現在四十才未満ノ青年分子ハ全中々等教育修了  
者ノ約九割、全高等教育修了者ノ約七割ヲ占メ、「ソ」聯国民ニ對ス  
ル共産主義思想ノ浸透程度著シキトヲ示セリ。殊ニ一九三六年  
頃ヨリハ新ニ民族的愛國思想ヲ鼓吹シ、堅實ナル国民精神ヲ確立  
ニ努力シツ、アリ。今次独サ蘇戰ニ於ケルサ蘇軍兵士及び国民ノ豫期  
以上ノ頑強ナル抵抗振リハ斯ル民族的愛國心ノ現レトモ見ラル、次第

ナリ。——從來「ロシヤ」軍ハ防禦ニ強カリシトハ前述セル所ナルモ、防中  
戦線ノ一角ガ突破セラレ、時ハ全線退却スルヲ例トセリ。然ルニ今次戦争  
ニ於テハ斯ル傾向ノ見受ケラレハ、強ク権カニヨル強制威嚇ノ結果、  
ミニハ非カルベシ——然レドモ一國ノ国民精神ハ一朝一夕ニシテ出来  
上ルモノニ非ズシテ、長年月ノ歴史ト傳統トニ基キテ始メテ確立セラ  
ル、モノト云フベク、斯ル意味ニ於テ「ソ」聯国民ノ愛國心ハ未ダ過渡的ノ  
モノタルコトヲ免レズ、國民ノ内部ニ尙相當根強ク残存セル現政權ニ  
對スル反感心ト共ニ、「ソ」聯ノ一大弱矣ナリ。

(五) 「ソ」聯ニ於ケル宗教ノ現世的勢力ハ共產主義理論ニヨリ徹底的ニ打破  
セラレタルモ、「ソ」聯國民ノ間ニ於ケル宗教意識ハ未ダ消滅サセラレ居ラズ  
一九三六年ノ報告ニヨレバ宗教團體ノ數ハ三万、其成員約百万人ニ達シ  
其ノ影響音下ニ於テ未ダニ宗教意識ヨリ解放セラレザルモノハ農村人口ノ  
三分ノ二、都市人口ノ三分ノ一ニ及ブト云ヒ、「ソ」聯國民思想統一上ノ弱矣  
ト認メラル。

内閣



一、共產主義

第四國情ノ特異性ノ總攷力ニ及ボズ歎仰也

ソノ聯ハ共產主義ニ依リ世界赤化ヲ以テ國是トシ其戰爭目的ハ階級闘争ヲ複合シ同年國民衆ヲ味方ニ取入レシトスルガ如キ特殊戰爭形態ヲ採用ス從テ平時時ニ於テハ思想戰ヲ重理シ又思想戰力ハ侮ルベカラズ然レドモ人類有テ本質的性情ハ民族力ハ牢固タシモノナリテ強クシテ弱クシテハ其主義赤化等ノスローガン一片鱗ガ之ヲ示サズ民族一ニ染リテ退ニカル直ニ布着眼ヲ要ス

二、独裁

- 政治ニ徹底的独裁ニシテ 政治、経済、軍事、外交ヲ一途ニ掌握シ
- (一) 經濟組織ニ國家管理トシ 利潤追求ヲ度外視シテ 僅管セラシ 政治、經濟ニ對シ 指導力強大ナリ
- (二) 政界西界ノ一割ハ 容易ナリ
- (三) 平時ヨリ 戰時ヘ一國家態勢ヲ 移行迅速ナリ

内閣

等高度国防国家 能<sup>伴利</sup>カヲ占ナラント稱スベシ  
三、実利主義

現政権ニ於テ極ニ顯著ナルモ、實際ニ事ニ方リテハ多分、実利的ニシテ戦争指導ニ過去ノ経緯、道義、<sup>等</sup>ノ面目<sup>等</sup>的ニ拘泥セザルニ注意スルヲ要ス

第五 資源及産業力

一、資源及産業力、強矣及弱矣

- (一) ソソ聯ハ天然資源豐富ニシテ其ノ均衡ヲ得アリ
  - (二) 食糧ノ完全自給性ヲ有シアリ
  - (三) 高度国防国家体制ノ下ニ政府ハ各種産業ニ對シテ絶對的ナル管理統制力ヲ有ス
  - (四) 主要産業ハ西部ニ偏在スルノ嫌アルニモ拘ラズ運輸力ヲ薄弱ナリ
  - (五) 戰時生産力ノ膨脹性少シ
  - (六) 機械工業特ニ精密機械工業ハ發達不十分ニシテ外國依存性大ナル短處アリ
  - (七) 非鉄金屬ノ資源十分ナラズ
- 即チ帝政時代ノ口シヤハ社会經濟的發展ニ於テ立  
厩レ牢固ナル農奴制的諸關係ニ阻エシテ生産力

ノ極大テ低劣ナル後進的農業國家ノ相貌ヲ呈シアリ  
タリ。ソレ聯ニ於テハ三次ニ類ル五年計畫ノ樹立實  
施ニ依リ従前各種産業ノ示シアリタル地域的不均  
衡性及偏倚性ニ對シテ国土計畫的再編成ヲ断行  
シテ一國生産力ノ大々的擴充ヲ圖リ強力ナル統制  
ト強壓ノ下ニ特ニ全國的工業化及電化、農業ノ機  
械化及集團化、徹底的資源開發等ノ目的達成  
ニ邁進シ其成果亦見ルベキモ、今や後進的農  
業國家ハ自給自足經濟建設ヲ自途トスル大工業  
國家ニ變貌シツアリト雖モ未ダ其計畫定見行ノ  
途トシアリト稱エバクソレ聯ノ有スル本質的弱  
點ハ改善セラレル一域ニ達セズ

## 二 資源

(一) 廣大ナル面積ト豊富ナル埋藏資源(石炭、鐵礦、

石油、木材、穀物等)ニ因リ兩邊ノ五年計畫ノ實施ニ依リテ著大ナル生産拡充ヲ見 重要食料品及工業原料品ハ大体ニ於テ100%若ハ之ニ近キ自給率ヲ示スモ羊毛及ゴムハ80%ノ自給率ナリ

(二) 特ニ自給率低キハ非鉄金屬ナリ 亜鉛及アルミニウムハ90%以上ノ自給率ヲ有スモニッケルハ約ニ6%錫ハ約30%ノ自給率ヲ有シアンチモン、タングステン、マグネサイト、モリブデンハ其ノ大部分ヲ輸入ニ依存ス 非鉄金屬ノ増産ニ関シテハ特ニ第三次計畫ニ於テシベリヤノ開發ニ力ヲ注ガ居レリ

(三) 而シテ重要戰争資源<sup>中ノ重要</sup>物<sup>中ノ重要</sup>資材ガ非鉄金屬ニ在リテハ、米、麦、南洋、羊毛ニ在リテハ米、麦、アラカニエタン、ゴムニ在リテハ米及南洋ノ諸國ニ依存スル事實ハ注目スルコトヲ要ス

内閣

### 三 工業力

高度国防国家体制ヲ整備シ政治力ト經濟力ト、完全ナル運轉系ノ下ニ兩次五ヶ年計畫ヲ遂行シ來リ工業力ノ進歩極メテ大ナルモ、アリ特ニ国防工業ニ重點ヲ注ギ居ルモト認メラルルモ尙左記ノ點ニ其ノ弱點ヲ有ス

(一) 重工業ノ国土計畫的再編成ニ付テハ政府ニ於テ之カ努力ヲ為シアルモ尙地域的ニ歐ノ西部ニ偏在スル事實ハ明カニシテ其ノ全ソレ聯ニ對スル比率ハ電力ニ在リテハ3/5、鉄鋼ニ在リテハ1/2、石油ニ在リテハ3/5、石油ニ在リテハ3/4、大ナル比率ヲ示シ居レリ

(二) 製鐵業ニ関シテハ良質ノ鋼材ニ不足シ、機械工業ニ関シテハ特ニ精密機械ニ付独、米ニ對スル依存度大ナリ

(三) 化学工業ニ関シテハゴム、染料及化学藥品ニ付外

国ニ依存ス

(四) 平時産業ヨリ戦時産業へ、膨脹性大ナラズ、五〇%  
程度ニ止ユルベシ

四 以上ノ自資源及生産力ハ尠大ナルソレ聯第一線武  
力ノ興行トシテ大ナル潜勢力ヲ保有シヤリト雖モ  
其ノ現在ニ於ケル工業力ノ奔弛達ハ殆瀼ナル兩正  
面戦争ノ實行ニハ幾多ノ障碍ヲ生起スベシ  
交通力ノ逼迫ニ伴ヒ特ニ然リトス

## 第六 交通力

### 一 判決

ソ聯ニ於ケル交通力ノ劣勢ハ總カ戰力中ノ最大ノ欠陥ニシテ  
地域ノ広大並ニ資源及産業配置ノ甚シキ偏在性ハ戰時ニ於テ  
交通運輸ノ任務加重ヲ著シク増大シ 一時的ノ局部的ノ戰爭ニ  
於テハ其弱點ヲ暴露スルコトナシトスルモ 永續的ナル總カ戰  
ニ於テハ交通力ニ大ナル欠陥ヲ露呈シ 總戰力發揮ノ  
不如意ヲ來スニ至ルベシ

### 二 ソ聯交通ノ特異性

(一) ソ聯ハ面積 広大ニシテ資源ト産業トが著シク分散且偏在的  
ナル為 總カ戰力ニ及ボス 影響皆 絶大ナリ、

例ヘバ 石炭、石油ノ主産地タル「ドンバス」  
「バクー」ヨリソノ主ナル需  
要地「モスクワ」州及「レニングラード」州ヘハ千五百料  
「ウラル」ト「クズバス」ハ二千料ヲ距ル狀況ナリ、



(二) 輸送、八割ハ鉄道輸送ニ依存ス。從テ河川運輸、自動車運輸ハ

ニ割ニスギズ (別紙第六參照)

三、ソ聯鉄道ノ欠陥

スターリン自ラソノ重要性ヲ認識シ建設、増備ニ勉メ特ニ「アジア」  
ロシアニ於テハ軍事的ト産業的ト意義ヨリ第三次計画ニ於テ  
例ヘバ南部シベリアニ於テウラルトクズバスヲ結ブ予定線ニ千料  
タイシエトヲ起スセルバム鐵道 三千料等 尨大ナル建設ヲ  
計画セルガ未カ左、如キ欠陥ヲ有シアリ、

(一) 鉄道網ノ分布ガ歐洲領ニ偏在シ「アジア」領ニ少キコト

(別紙第七參照)

歐洲領 68%  
アジア領 31.4%

(二) 鉄道ノ密度ハ低キコト 即チ面積千平方料当リ三・九料、人口

一五人当リ四・九料ニスギズ 列不ニ比シ遙カニ劣ル

(別紙第八參照)

内閣

(三) 産業配置ノ不均衡ナル為過當ノ遠距離輸送ヲ行ハサルベカラザ

ルコト

(別紙第九参照)

(四) 輪轉資材ノ酷使 (別紙才ニ参照)

一九一三年ノ調査ニヨレバ車輛ハ非常ニ使ヒ古サル車齡一〇年  
未滿ノ新機關車ハ三五・三% 一〇年乃至二十年ノモノ  
四〇・一%、二十年以上四十年ノモノ一五・六%、四十年  
以上五十六年ノモノ九% ニシテ老朽車ハ約四令ノ一ヲ  
占ムル情勢ナリキ

別紙才ニ表ニヨレバ輸送量ハ著シク増大セルニ拘ラズ  
車輛ノ増加ハ之ニ伴ハズ如何ニ輪轉資材ヲ酷使シ  
居ルカヲ想像スルコトヲ得ベシ

又線路一料当リノ一年間ノ輸送量(輸送密度)ハ四、一六九  
千吨ニシテ滿鉄ノ約三倍ニ達シアリ、

(五) 線路ノ改良不充分ナルコト

即チ軌条重量ハ四三噸

内

圖

三八% (五二%) 或ハ夫以下 (四八%) ニシテ準軌平均五十% ニ比シ甚カ  
カルノミナラズ。道床ハ砂道床大部 (九三、三%) ヲ占メ碎石道床  
ハ僅ロニ六、七% = 過ギス

(六) 従事員ノ素質不良ニシテ且 鉄道技術低位ナリ

四) 聯、水運又自動車運輸

(一) 河川運輸ハ陸上運送ノ補助機関ノ補助機関トシテソ聯全

輸送量、約一〇% ヲ占メオ三次計畫ニ於テハ更ニ拡張ヲ

豫想セラル。利用セラル、河川ハ、<sup>ソ</sup> ヲアルガ<sup>レ</sup> 河外一〇ナルモ

輸送量、四六、三% ハ、<sup>ソ</sup> ヲアルガ<sup>レ</sup> 河之ヲ占ムハ

(二) 海上運輸、ソ聯、海上運輸ハ一九三七<sup>年</sup>ニ於テ一二五<sup>噸</sup>ノ

船舶ヲ有スル、ソ、内一〇〇<sup>噸</sup>ガ遠洋、沿海ニ使用ハレ、残ハ

河川運輸ニ使用サル。今<sup>後</sup>共輸送上ノ意義深カラズ

(三) 自動車運輸、百<sup>五</sup>名ノ自動車ヲ保有シ、道路ノ拡張ニ

伴ヒ今<sup>後</sup>ハ、鉄道輸送ノ補助トシテ开发進スベキモ、目下ニ於テハ

一内 閣

自動車道ノ発達不支今ナリヨリ其輸送上ノ價值大ナラス

内  
閣

# 第七軍備

一陸軍、空軍、現兵力（独り用戦前）左ノ如シ

第一線	一〇六	二七	三五	三	二
第二線	一八	一五	六	五	
合計	一二四	二八五	四一	三七	
コーカサス	一〇	三	一	二五	
中央亞細亞	三	四	二	一	
合計	一三	七	三	三五	
ミベリヤ	八		一	二	
極東	三〇	四	一五	一〇	
合計	三八	四	一六	二	
統計	一七五	三九五	六〇	五二五	
人員	約五〇〇万	戰車約一万台	飛行機約一万一千台		

内閣

海軍力

二蘇聯海軍兵力

總力戰研究所	大型潛艇	掃海艇	水雷艇	襲設艇	旧艇	特艇	乙艇	甲艇	空母	戰艦	於種所在	波爾的海	黑海	北洋	極東	計
	二九	約三〇	一八	九	九	一	四	四		三						
	一一	一一	六	五	五	七	六	二		一	一					
	九		四		三											
	一四	約三〇	約一五〇	五	二	六	二									
	約七一	約一七八	一九	一九	三二	一一	六	一	四							

高速艇	警備艇	砲艇	砲艦	其他特務艇	碎氷艦	小型潛	中型潛
約一〇〇	約一〇〇			約二〇	二三	三一	三九
五〇	一一〇			五	一	八	二六
一五	二四			約一〇		四	九
約二〇	約二一〇	約四	約五	一四	二九	四九	三六
約一五	約四四	約四	約五	約一四	約五	約三	約一〇

總力戰研究所

總力戰研究所

高速艇	警備艇	砲艇	砲艦	其他特務艇	碎氷艦	小型潛	中型潛
約一〇〇	約一〇〇			約二〇	二三	三一	三九
六〇	一一〇			五	一	八	二六
一五	二四			約一〇		四	九
約二〇	約二一〇	約四	約五	一四	二	四九	三六
約一五	約四四	約四	約五	約一四	五八	三三	一一〇



三、人的資源ヨリ見ル 動員可能數

(一) 動員可能總數ハ約三、〇〇〇万人ナリ

1. 兵役義務者 三、九〇〇万中在リ如ク 二、八五〇万 兵役適シ

年令 總數 率 兵役適

46才 - 50才 三四三万 四〇% 一三七万

22才 - 45才 二、九二八万 七五% 二、一九六万

18才 - 21才 六二六万 八五% 五三三万

合計 三、八七七万 七三% 二、八五〇万

只不充要員ハ約一、〇〇〇万ナリ

熟練工 三五〇万 (男子労働者一、四〇万ノ二五%)

農林残留者 六〇〇万

其他 五〇万

合計 一、〇〇〇万

ハ、二、八五〇万ヨリ一、〇〇〇万ヲ控除シ 比率諸國一、一五〇万ヲ加算

内閣

2,000,000

(三) 動員可能師団数 總計二九。師団三三。現在、兵力、新、約一。師団、動員可能ナシ

2,000,000 x 0.17 = 1,400,000 ----- 隊別部隊充当数

一月、損耗率ヲ4% (前大洲、例ニ徴シ)ニシテ動員可能隊<sup>件</sup>数ヲ凡トセシ。昨年ヲ24ヶ月總算スルニシテ

1,400,000 - 2,000,000 x 0.04 x 24 = 2,000,000

2,000,000

750,000  
2,750,000 (總算ニシテ一師団分兵力ヲ) = 287 師団

~~2,750,000~~

内 附

四、軍、物的戦力

(一) 軍、物的戦力比較 (致之口述)

人

打戦車砲

馬

輕隊砲

十銃

野砲

輕機

十榴

重機

十五榴

擲彈筒

輕裝甲車

大隊砲

戰車

自動砲

即ち砲兵大器及裝甲兵器。於て、少軍優劣は、此處に於て、我優劣は、白兵力、總計優劣は、

(二) 航空兵力

1. 航空兵力、總計約一五、千機

内閣

口、生産能力の年度一可機を越へず、  
陸路ヲナシカニモノ如シ、  
ハソ、聯軍用機、性能左ノ如シ、  
奈動機カ生産一

内  
閣

### 蘇聯主要軍用機性能一覽表

昭和十六年六月一日

機種別	任務	名稱	座席	性能				兵器等	
				發動機	最大速度	航程	上昇力		
戰		И-15	1	M-25 750X1	195 (135)	2.5 (338)	$\frac{5,000}{6.5}$	固定機銃 4 (7.7托) 爆彈 15斤 X 4	複葉 固定脚
		И-15.3	1	M-25 750X1	240 (170)	2.0 (340)	$\frac{5,000}{6.0}$	固定機銃 4 (7.7托)	複葉
陸		И-16	1	M-25 750X1	245 (180)	2.0 (340)	$\frac{5,000}{6.5}$	"	單葉
		И-16bis	1	M-25 750X1	285 (200)	2.0 (450)	$\frac{5,000}{5.0}$	固定機銃 2 (13.5托) 重砲 2 (20托)	同上
上	偵	И-18?	1	M-102 1000X1	305 (260)	2.0 (450)	$\frac{3,000}{3.0}$	固定機銃 2 (13.5~17托) 重砲 1 (20托) 15斤 X 4	同上
		複座戰機偵偵	2~3	M-102 850X2	285 (220)	3.25	$\frac{5,000}{8.0}$	旋回機銃 1 砲 2~3	爆彈 200~300斤
		P-10	2	M-102 750X1	226 (170)	5 (1,000)	$\frac{3,000}{7.0}$	固定機銃 2 旋回機銃 1	爆彈 100斤
機	爆	CB-3	3	M-102 850X2	255 (220)	6 (1,000)	$\frac{5,000}{15}$	旋回機銃 2~3 (7~13托) 爆彈 500斤	
		CB-4?	3	M-102 or M-34 950X2	285 (240)	4 (950)		"	
		ДБ-3	3~4	M-85 900X2	243 (200)	12 (2,000)	$\frac{5,000}{17}$	旋回機銃 2~3 (7~13托) 爆彈 1,000斤	
擊	手	ТБ-5	7~9	AM-34 850X4	135 (105)	8~10 (840~1,050)	$\frac{3,000}{20}$	旋回機銃 5~6 (內砲 1) 爆彈 2,000斤	
		ТБ-7	7~9	AM-34 1,000X4	220 (180)	10 (1,800)	$\frac{5,000}{25}$	旋回機銃 5~6 (內砲 1~2) 爆彈 2,000~2,500斤	

總力戰研究所

水上	爆	KOP-1	2	M-25	750x1	170 (130)	3.5 (450)	$\frac{3,000}{5.5}$	固定機銃 2 旋回機銃 1	煤彈 100斤
機	雷	MBP-2	3~4	AM-34	850x1	150 (124)	7-12 (4,240)	$\frac{3,000}{18}$	旋回機銃 2	煤彈 200斤
飛	哨	APK-3	5	M-25	750x2	145 (110)	8-12 (4,100)		旋回機銃 2~3	煤彈 1,000斤
艇	偵	ДБ-3П	3~4	M-85	900x2	220 (175)	10 (4,800)	$\frac{5,000}{20}$	旋回機銃 2~3	魚雷 850斤
(註)		(1) 最も発動機、好調且戦術的 = 有利ナル速力ヲ常用速力トセルモノ如シ								
		(2) 名称一定シテ、其ノ確實ヲサセルモノアリ								

三 戰車及自動車

1. 戰車の約一五〇台有り其生産能力月産約四〇〇ユニット

2. 自動車負車一任有統數約一〇〇〇台中使用可能約六

〇五三台其上一三二〇台輸送軍用ニ充當可能ナリ

五、ソノ軍人的要素

一、高級指揮官の其歴史の鑑に未ダ能力十分ナシ一カレ命令  
完全の觀念に旺盛ナルモ一面肅正、処断等、有る不年ナリ有シ  
アリ

二、佐隊官の相當ニ訓練セラルルモ強断的指揮能力ニ欠陥シアリ

三、下士官の従順ニシテ忍耐力ニ富ミ体力強健ニシテ指揮官  
ニ其人ヲ得ハ精強ナル軍隊先ニ素所長ヲ有レリ

六 戰車技術思想

一、戰車技術思想の一次カニ及ボス教訓日  
ソノ軍の由來の消耗戰果ヲ以テ其主義トシレアリガ一九三六年  
新野外的命令發布ニ依リテ如キ主義ヲ明カセリ

一) 以勢之依に連戦即決ヲ主トス  
 二) 敵一意志表ハ出ズルニト及包圍ヲ重視ス  
 三) 戦果、戦術印署ニ於テ維持ヲ大志ニシテ以勢及攻撃ニ於テ  
 的維持ノ同時別段ヲ企図ス  
 要ニ今次大戦ニ於テ独ニ西ヲ作戦ノ成果ニ鑑ミ  
 一) 戦車大集団ノ集中運用法  
 二) 急降下爆撃機ノ地上作戦協力  
 三) 空輸挺進隊ノ運用  
 等ヲ企圖シ来ルンガ如シ  
 然レドモ其民族性ハソレ軍一ノ使業ニ鑑ミ左ノ如キ本質的傾向  
 ヲ有シカス  
 一) 大部隊ノ軽快ニ指揮能力ニ欠除ス  
 二) 戦強ニ正面攻撃ニ抗堪力強キ以勢ヲ動カシ以明ニ於テ  
 作戦力ヲ能力十命ニ大



(三) 重点形成の徹底性を欠く

(四) 連繫協同の不尽なり

(五) 時として大陸の意思表外への徹底を行使せざる事あり

七、軍備その他力との関係

約三〇〇師団、軍備及其発動一為

(一) 人的資源の大陸路の形成を以て全師団の併せて陸軍に奉

に相当の度、低下を来すべし、秘密の難かる

(二) 工業力の乏しが右軍備の形成に困難ならん事（独蘇戦前）

補給の準備兵器不足の起る、動員兵力に制約を来すべし

ト判断せしめられたる事（美の予想を裏切らざらん）

但し、金銀力に於て長期の流注を伴うて遂行に困難を来すべし

(三) 交通力の流注を長期にわたる作戦に欠陥を蒙る事あり

民需の輸送に困難を来すべし

第二章 極力使用し得る総力、統計

一、極力、性格

(一) 極力、總力、策源地、より広大にシベリヤ、距離、高隔して

在る極力、於ける總力、發揮、根本的、障礙、ヲ、呈シタルモ、一、

極力、受ける打擊、全總力、ニ、致命的、ヲ、與へ、シ、テ、後、有る

広大なる空間、ヲ、持久力、ノ、一大、要目、ナリ

(二) 右、空間、ヲ、克服、運送、ニ、任じ、ル、シ、ベ、ク、シ、テ、一、本、ニ、シ、テ、力

ノ、基礎、ヲ、博、弱、ナ、リ、ト、稱、ス、ベ、シ

(三) 極力、人口、ハ、自給力、ヲ、有、セ、ザ、ル、ニ、シ、テ、工業力、貧弱、ナ、リ、又

資源、亦、乏、シ、テ、甚、ク、不、合、ニ、シ、テ、自、身、總、力

ノ、策、源、見、ノ、性格、ヲ、保持、シ、テ、ア、ラ、ス

内  
閣

二 極東、次資源及産業

(一) 鐵、石炭、石油及非鉄金屬ノ埋藏量大ナルト共ニ可耕未墾地ニ亦廣面積ヲ有スルモ經濟開發未  
如十分ナラズ且歐ソヨリ遠距離ニアルニモ拘ラズ運輸能力低ク從ツテ一ツノ獨立ナル國防經濟地區ニ成長スル迄ニハ前途未ク遠キナリ

(二) 農畜産物ニ就テハ馬鈴薯ノミガ自給性ヲ有シ穀物、飼料、獸用、蔬菜等何レモ自給性ナク平均約七〇%ノ自給率ヲ示シ假ニ民需ヲ最低限ニ壓迫スル場合ニ於テモ十年程度ノ持續力ヲ有スルノミニテ爾後相當困難ヲ來スベシ

(三) 鑛産物其他ニ就テハコメリアテン、亜鉛及錫ガ自給性ヲ有スルノミニテ他ハ自給性ナク平均約七三%ノ自給率ヲ示シ假ニ第三次計畫が計畫通實施サレ民需

毛亦最低限ニ圧迫シタル場合ニ於テ毛石炭ノミガ自給  
性ヲ有シ、石油、鐵等其ノ他ノ物資ハ自給性ナシ  
四) 国防工業業ノ發達殆ンドナク飛行機、中口径以上ノ  
大砲、精密兵器、戰車、自動車、火藥、砲彈  
等ハ全部改ゾレニ其ノ製造ヲ依存シアリ

### 三、極東ノ交通力

(一) 極東ノ鉄道ハソ聯全体ニ比シ甚ク低位ニアリ。

鉄道ノ密度ハ欧米領七割弱、アジア領三割強ニシテ、シベリア

ハ極東ノ千平方キロメートルノ密度ハシベリアニ於テ〇・九割、極東

ニ於テ〇・九割ニシテソ聯全体ニ比スルモ如何ニ貧弱ナルカヲ知ル

ヲ得ベシ。尚建設途上ニアル南シベリア鉄道ハ「ウラル」ト

「カスバ」ヲ結ブ重要線ナルモオ三次計画ニ於テハ其ノ一部ノ

實現可能ニ過ギズ。又軍事的重要性ヲ有スル「バム」鉄道

モ一九四五年ヲ目標トシアルモ其完成ハ先ヅ困難ナリ

現在ハ唯一ツノシベリア鉄道ニヨリ輸送ハ行ハル

シベリア鉄道ハ複線ニシテ一日四十ヶ列車、一ヶ列車七百

ノ能力ヲ有ス

又シベリア鉄道ノ滿ソノ境ハ近接圍繞シアル戰略的

脆弱性モ見逃スルコトラス

(二) 水運ハ「レ」ナ「リ」河「ラ」アムール河ニヨリ相当量ノ輸送アルモ鉄道ノ輸送ニ比スルハ問題ニナラヌ数量ナリ。尚冬期ニ於テハ輸送困難ヲ加ス。

(三) 北氷洋海路亦能力小ニシテ僅カニ現在日量半々列車分ニ充タズ大ナル價值ナキモト断ズベキナリ

内  
閣

四、西方充當兵力

ソノ聯、極力ニ使用シ得ベキ。戦力ノ絶好地ハ、西方情勢、如何ニ依リ、形勢直ニシテト多ク、而シテ、西方擗攘諸國ノ保有力ヲ檢計スルト別紙第一〇ノ如シ。即チソノ聯、西方を攻メ、針ヲ擗用スルニモ、敵性國ト概不同路、兵力ヲ西方ニ派遣セザルニ入ラス。

内

開

五、陸軍及空軍、現状

(一) 其兵力及配属、概要左ノ如シ

極東	一	一	四	三	一
極北	一	一	一	一	一
正北	三	一	一	一	一
軍尾港	二	〇.五	一	一	一
ガバヤカシ	八	二	一	一	一
外蒙	三	六	一	一	一
合計	三〇	一五	九.五	三	三
人	一七、五万				
馬	一七、五万				
戦車	三、〇〇〇				
別ニハベシヤ	三				
ヲ有ス	八	一	二		

組隊師団 騎兵師団 戦車旅団 飛行師団 空騎旅団

内閣



(二) 飛行機ハ計二、八〇〇機ニテ其次左ノ如シ

遠爆	重爆	中爆	駆逐	偵察	遠偵	水上計
極東正運軍 一五〇	一三〇	三三〇	六四〇	一〇〇	三〇	一三七〇
ガバイカ以外家 五〇	五〇	一六〇	五〇〇	一〇〇	一〇	八九〇
太平洋艦隊 二〇	二〇	五〇	二六〇			二三〇

合計 二〇〇 二〇〇 五五〇 一〇〇〇 二〇〇 〇 二二〇〇 二二〇〇

(三) 人員充足度左ノ如ク高進員一總効力ニ在リ

組隊師団	七〇%
騎兵師団	八〇%
戰車旅団	一〇〇%
飛行師団	一〇〇%
軍直中隊	八〇%

内 閣

六、在極東兵力、歸制人主要性能

一、沿海州方面

平部設數	隊部	水	太	澡部	雷	水			
	2Ss	3Ss	1Ss	4Ss					
裝設機	工ム型	シキヤ一型	シキヤ一型	工ム型	潜水母(四五〇〇電)二〇〇〇電)	新型水雷艇(六〇〇電)	旧 艇(二、一〇〇電)	工ム型 艇(一、六〇〇電)	オムシヨキ一七型 艇(二、六〇〇電)
三五〇〇電 三五	四、五〇〇電 一	(一、二〇〇電) 三七	(一、六〇〇電) 一六	(一、六〇〇電) 一六	(一、〇〇〇電) 一一	二	六	二	六
14	14	13~16 8~9	15~16 8~9	15~16 8~9	15~18 8~9	33	30	33	連力
12x2 7.5x2 11.9x2	15x4 <sup>CM</sup> 11.9x5	同	同	AA 3.7x2 11.9x1	10.2x1 11.9x1	10x2 3.7x3 11.9x1 (IV) 11.9x2	10x4 7.5x1 11.9x2	13x4 7.6x2 3.7x2 11.9x2	13x5 AA 7.5x2 AA 3.7x2 11.9x6
	45x2 <sup>CM</sup>	同	同	53x4 <sup>CM</sup> (箱) 53x2 <sup>CM</sup> (艇)	53x4 <sup>CM</sup> (箱) 53x2 <sup>CM</sup> (艇)	45x3 (III) MX40 DCx20 3部掃	45x9 (III) MX60 3部掃	53x6 (II) DCx14 3部掃	53x8 (IV) MX60 DCx10 防雷具、他
		右	右						主要性能

總力戰研究所

隊	部	務	特	艦	隊	部	隊	部	洋	海	掃	隊
碎氷艦 (一〇〇〇電) 三〇〇〇電 二〇〇〇電 一六〇〇電 一四〇〇電 九	救難艦 (二、三〇〇電) 一	運送艦 (二、七〇〇電) 二七〇〇電 一、五〇〇電 一、五〇〇電 七	測量艦 (一、五〇〇電) 一、五〇〇電 一、五〇〇電 一、五〇〇電 七	給油艦 (一、三〇〇電) 一、九〇〇電 二 三	警備艦 (一、八〇〇電) 二	警備艦 (二、〇〇〇電) 一	高速警備艇約一〇 <small>(海軍人内初級隊員部)</small>	高速水雷艇 約一〇〇	呉船型 (二〇〇電) 三	Tヤン型 (一、三〇〇電) 二	トロール船型 (八〇〇電) 六	パラバン型 (五〇〇電) 級新型 八
15/18	12	12	12	20	18	20	42	10	10	12	26	15,000
				10x3 AA 3.7x4 M9x1 (IV)	10x2 AA 3.7x2 M9x1 (IV)	AA 3.7x1 M9x1 2 M9x2	M9x1	7.5x1 AA 3.7x2 M9x2	7.5x1 AA 3.7x2 24 M9x2 (IV)	10x1 M9x2 (IV)	8x1 AA 3.7x1 M9x2	7.5x4 M9x2
				M 7 1				27 1	27 1	27 1	27 1 37 1 D(x)10	

總力戰研究所

總力戰研究所

艦		砲		艦種	專項	其數	排水量	速度	主要	要	備目
五	三	四	四	高速警備艇	黑龍江方面	四十隻	九六〇	12	15x4 AA 8x2 119x5	AA 8x2 119x5	雷 裝
四	五	九	六	工九型潜水艦		四十隻	九六〇	12	AA 8x2 119x5	AA 8x2 119x5	雷 裝
五	三	四	四	高速警備艇		四十隻	九六〇	12	AA 8x2 119x5	AA 8x2 119x5	雷 裝

(二) 堪察加方面

潜水母

工九型潜水艦

高速警備艇

(三) 黑龍江方面

四十隻 (含內務人民委員部所屬)

隊	支	洋	隊	北
隊	隊	隊	隊	隊
警備艇	高速水雷艇	掃海艇	工九型	シキヤ1型
	若干		(一二〇吨)	(六〇〇吨)
			二	四
			13~16 8~9	15~16 8~9
			AA 3.7x2	AA 3.7x2
			CM 45x2	CM 53x4 (船首) CM 53x2 (船尾)